



Student News



人を応援し、人から応援してもらえる人に
才能、発見！才能を社会に活かす志を育む

東京工業大学名誉教授であり本校理事長の 秋鹿研一先生による特別授業(全5回)

東工大名誉教授であり本校理事長の秋鹿研一先生による特別授業がアドバンスコースの2年生を対象に行われました。特別授業は全5回行われ、その内容は理事長先生が生涯をかけて研究するアンモニアについても触れられました。理事長先生はアンモニア合成を通して人類を支える研究者であり、最近では国の科学技術プロジェクトのまとめ役でSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた再生可能エネルギー水素を用いた新しいアンモニア合成システムの研究開発を行っており、秋鹿先生はその研究にあたる全国の研究者たちの司令塔として活躍されています。

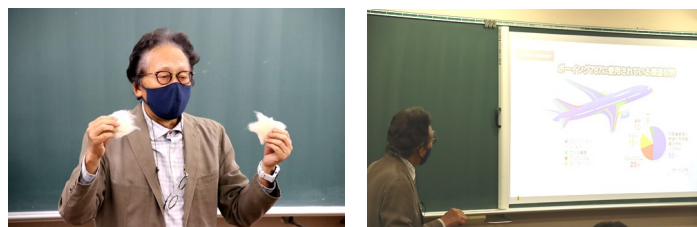
第1回「社会と学問を繋ぐ」

第1回のテーマは「社会と学問を繋ぐ」で、例えば新聞に特集記事があったとします。それで何となく分かった気がします、学問はそれを体系的、客観的に教えてくれます。毎日の授業が社会でどう役立つか、一緒に考えるという内容でした。



第2回「科学技術と社会」

第2回のテーマは「科学技術と社会」で、高度な社会は科学技術が支えています。便利で豊かな社会、それをすべての人が享受できる社会を作り続けようとする政治経済は努力を続け、その重要な役割を担っている1つが科学技術の理解と発展であるという内容でした。



第3回「地球が危ない」

第3回のテーマは「社会と学問を繋ぐ」で、「温暖化」とは何か？私たちがどうすれば良いのか？未来社会への展望は？温暖化よりさらに深刻な「窒素循環危機」を知る人は少ない…という内容でした。

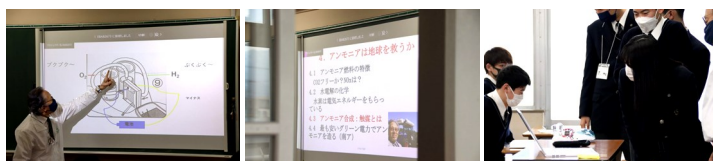


第4回「アンモニアは地球を救うか？」

第4回のテーマは「アンモニアは地球を救うか？」で、理事長が生涯を賭けて取り組む課題を国が政策へ加えた。アンモニアがCO2を出さずに燃える？しかし、作るときにCO2を出さないか？アンモニア燃料の特徴やブルーアンモニアとグリーンアンモニアの違い、これまでアンモニアが燃料として使われなかった理由など、アンモニア合成反応に加え触媒や水電解の化学にも触れながら化学産業における重要技術の理論を教わることができました。南アフリカを拠点に、最も安いグリーン電力でアンモニアを造り、世界を救えるか。

第5回「地球が平和になるために」

第5回(最終回)のテーマは「世界が平和になるために」で、簡単なことではないが、自分が世界で一人の貴重な存在であることを自覚し、自分が強くなる方法を考えようという内容でした。対話重視の講義で、理事長先生が生徒たちからの質問に対して答えていました。鈴木陸君(伊東南中出身)は「名誉教授の講義はとても貴重な経験でした。この経験を生かして成長したい」と話してくれました。



卒業生デザインのロゴ

